３　教育に関する学識経験者の意見

１　意見提出者

教育委員会が行った点検・評価の結果に関して、次の２名の学識経験者から意見及び助言をいただきました。

岩田　博明（元江別市立江別第三中学校校長）

藤田　昌之（江別市社会教育委員）

２　意見及び助言

第６次総合計画の取組状況を基に、本年度は、「子どもの教育の充実」に関する事業、「ふるさと意識の醸成と地域文化の創造」に関する事業及び「国際交流の推進」に関する事業について点検・評価を行いました。

約３年間続いたコロナ禍では、多くの事業を縮小せざるを得ない状態が続いていましたが、このたびの評価作業において、教育委員会が様々な工夫をしながら事業に取り組んできたことを理解することができました。

学校給食に関する事業は、子供たちの安全、安心な食生活に不可欠なものであり、食育は、将来につながる大切な教育です。昨今、食材の値上がりによって給食の質の低下が懸念されておりますが、学校生活の楽しみの一つでもあるので、子供や保護者の期待に沿うよう各取組を充実させていただきたいと考えます。

生涯学習・文化に係る事業について、市内の歴史的建造物を活用した体験学習や、市民による主体的な芸術文化活動への参加及び鑑賞は、将来を担う子供たちにとって、ふるさとに誇りを持ち、心豊かな人間形成につながる大切な取組です。また、大人や高齢者にとっても日々の生活の潤いや、生きがいにつながる取組であると考えておりますので、今後も市民のニーズにこたえる事業になるよう尽力いただきたいと考えます。

国際交流に係る事業については、外国を含めて異文化を理解することで、北海道におけるアイヌ民族などへの理解や多文化共生の意識形成が図られる取組であると考えます。市内でも増えている在住外国人のサポートと併せて、更に取組を充実させていただきたいと考えます。

教育行政を推進するためには、保護者や地域の方々との連携・協力が不可欠です。そのためには、江別市教育委員会の取組を知ってもらうことが大変重要であると考えますので、様々な機会を通じて、より一層、分かりやすい情報発信に努められるよう期待いたします。

以下、それぞれの基本事業に着目しながら、意見等を申し上げます。

【子どもの教育の充実】

・　学校給食事業の推進は、子供の成長のためにとても重要な責務を担っていると考えます。江別市の給食は、味の面でも、メニューの面でも良い評判を耳にしていますので、その点は自信を持って続けてほしいと思います。

　また、地産地消の観点から、新鮮で安全、安心な地場産野菜を多く使用し、バランスの取れた栄養豊かな食事の提供に努めていることは高く評価できます。使用率は、50パーセントをやや下回っておりますが、以前は 50 パーセントを超える年も見られますので、１パーセント、２パーセントでもより上げていくことが望ましいと考えます。

・　学校給食に使用する食器や箸については、食器検討委員会を開催し、安全、安心なものを選び更新していることは大変評価できます。磁器食器を使用することによる重さや破損の問題などの課題はありますが、今後も食器や箸の素材等について情報収集に努め、更新の際は、子供たちや調理員にとってより安全、安心かつ使いやすいものとなるようお願いします。

・　食育は、児童生徒が食事の重要性を理解し、豊かで健全な食生活を身に付けるための大切な取組だと思います。５名の栄養教諭により各学校で「食に関する指導」が行われることは、より専門的な内容の指導ができることはもちろん、他の教員の負担軽減につながるメリットもあると考えます。直ちに成果が見える事業ではないと思いますが、将来、子供たちが社会に出て生活するときに役立つよう継続した実施を期待します。

・　物価高騰対策として、学校給食の原材料費が高騰した状況においても保護者負担を増やすことなく、栄養バランスが保たれた学校給食の安定的な供給ができたことは大変評価できます。現状でも特に子供が複数名いる家庭には、給食費の負担は大きいと思われますので、物価高の間は是非とも事業を継続してほしいと思います。
　一方で、この状況が長く続くと当然、市の財政にも影響しますので、並行して給食費の未納解消などの取組にも努める必要があると考えます。

【ふるさと意識の醸成と地域文化の創造】

・　ガラス工芸館は、工芸家が創作活動を行っているため、どうしても開館できる日数が限られてしまうと思いますが、その中で、子供たちがガラス作りを体験できる取組を考えていただいたことは大変有意義なことだと思います。
　来館者数については、１日当たりの人数制限もあると思いますが、より多くの市民が気軽に見学、体験できるようＰＲや周知方法を更に工夫してほしいと思います。

・　土曜広場は、子供たちに日本の伝統文化を体験、学習する機会を提供し、もって文化芸術活動の拡充を目指す画期的な事業だと思います。他の市町村からも江別市のこの取組が高く評価されていると聞いております。講師の高齢化や人材確保の問題、参加対象となる子供の減少といった課題もありますが、子供たちが土曜日をより良く過ごすための居場所となるとても大切な活動と考えますので、今後も継続していくため、講師の募集方法を検討するなど、人材確保に努めていただきたいと思います。

・　市民文化ホールは、年間の利用者数が４万人を超えているとのことであり、芸術文化活動に力を入れている市民にとって、本当に重要な施設であると感じました。中学校の吹奏楽部なども演奏会で使用していますが、子供たちにとって、このような場所で発表することは活動の意欲向上につながりますので、是非これからも充実した取組を続けてほしいと思います。
　また、江別市文化協会補助金、文化振興奨励事業及び市民芸術祭開催支援事業も同様に、市民の芸術文化活動への興味関心や意欲を高め、地域の文化・芸術の発展及び人材育成につながる大変重要な取組であることから、継続して実施されることを期待します。

・　芸術鑑賞招へい事業については、江別市内でプロの団体や個人による質の高い舞台芸術公演が行われ、市民が身近にこれを鑑賞できる機会を得られていることは大変評価できます。招へいにはかなりの費用がかかるようですが、小中学生の吹奏楽部などがプロの団体に招待されることもあるとのことなので、教育の振興にも役立つと思います。是非、続けていただけたらと思います。

・　北海道林木育種場旧庁舎は、オープンして２年目ということで、それ以前の実績との比較ができませんが、歴史的な建造物で駐車場も整備されており、１階にカフェが入るなど、今後いろいろな活用が期待できるのではと考えます。いまのところセミナーやワークショップでの使用実績等に限られているようですが、これから少しずつ用途を広げていき様々なイベントに活用、対応できるようになることを期待します。
　また、旧町村農場については、現在、大規模改修中とのことですが、以前は、冬期間は閉鎖していたところを一部通年で公開したり、酪農の歴史や発展がわかりやすいように展示を工夫する予定ということですので、リニューアルを注視したいと思います。

【国際交流の推進】

・　昨今は学校現場も含め、市内で外国人に会うことが多くなってきたと感じており、今後も、ますますそのような流れになると思います。国際交流情報提供事業や市民交流施設関連経費により在住外国人のサポートに努めるとともに、市民の国際感覚や国際意識を高め、異文化への理解促進に一定の効果が見られていることは大変評価できますし、この事業の重要性も感じています。
　在住外国人が、地域で孤立するようなことになると大変心細いと思いますので、地域住民とのコミュニケーションを図るための交流の機会を増やし、できる限りそのＰＲにも力を入れて多くの市民に参加を促すよう努めていただければと思います。

・　江別市都市提携委員会補助金により姉妹・友好都市との交流を実施し、異文化への理解促進や郷土を愛する心を育むことなどにつなげていることは高く評価できます。残念ながら、コロナ禍により令和４年度はオンライン交流のみということでしたが、本年度は江別市の中学生がグレシャム市を訪問すると聞いております。子供たちにとって、すばらしい経験を得られる機会だと思いますので、是非、事業を続けてもらいたいと思います。